

季刊 ジャネット Ja-Net

Ja-NetはJapanese Networkの略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

No. 55

2010年10月25日発行

- ◆ View from the Other Side 3
- ◆ あちこち日本語ご紹介
(神奈川県相模原市) 4
- ◆ あちこち日本語ご紹介
(ドイツ連邦共和国ハレ〔ザール〕市) 5
- ◆ 教材紹介 6
『新完全マスター漢字 日本語能力試験 N1』『同 N2』
『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』
『ニュースの日本語 聴解50』
『毎日練習! リズムで身につく日本語の発音』
- ◆ なんでも情報BOX 8

スリーイーネットワーク

巻頭寄稿

多文化・多民族社会における言語問題

首都大学東京 都市教養学部 准教授 野元弘幸



アイヌ民族の動向から

私が所属する日本社会教育学会は、今年度から、「アイヌ民族・先住民族に関する教育の課題」という新しい研究課題に取り組むことを決めた。これまで、アイヌ民族の教育に関するシンポジウム等は開催されたことはあったが、学会全体として本格的に取り組むのはこれが初めてである。

その背景には、2008年6月に日本政府が正式にアイヌ民族を日本の先住民族であると認めたことと、それを契機にアイヌの人々による民族教育に対する要求が高まってきたという事情がある。アイヌ民族関係者の長年にわたる運動にもかかわらず、アイヌ民族を先住民族として認めてこなかった日本政府が、2008年6月6日に衆参両議院で採択された「アイヌ民族を日本の先住民族として認めることを求める国会決議」を受けて、「内閣官房長官談話」を発表し、遂にこれを認めたのである。

これに先立つ2007年の国連総会で「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が採択され、日本政府はこれに賛成票を投じたことも影響している。宣言の第14条に「先住民族は、その文化に沿った教育及び学習の方法に適した仕方で、その固有の言語で教育を提供する教育制度及び施設を設立し、及び管理する権利を有する」という規定があり、アイヌ民族関係者がこれを根拠に、アイヌ民族学校や・民族大学の設立などアイヌ民族教育制度の確立を求める運動も展開しはじめていたのである。

共生システムの見直しと創造

冒頭、アイヌ民族をめぐる新しい動きに触れたのは、今、日本の従来の政治・社会システムが、根本から見直される時期に来ていることを象徴する出来事のように思われるからである。私たち日本語教育にたずさわる者は、今、異言語、異文化をもつ人々と、地域社

会でもともに生きていくための共生のシステムをどのように創造していくのか、待たなしの状況に追い込まれている。

外国人との共生をめぐる課題は、かつては、異文化理解や異文化交流の課題であった。行政施策においても如何

に充実した国際交流活動を展開するかであったが、今では、外国人住民と日本人住民の生活者としてのコミュニケーションをどのように確保していくのか、また、永住外国人の地方参政権問題に見られるように外国人住民の政治社会参加をどのように制度化していくかなど、新しい共生のシステムをどのように構築していくかが鋭く問われてきている。

とりわけ、外国人集住地域では、地域のコミュニケーション力の低下や行政システムの未整備による諸矛盾が顕在化しており、摩擦や差別を解消して、共生のまちづくり・システムづくりをどのようにすすめるかが、課題となっている。一般に、外国人集住地域では、外国人住民と日本人住民がともに豊かに暮らし、働くことのできるシステムづくりは、うまくいっておらず、問題は深刻化しつつあるのが実情で、そこから外国人排斥につながりかねない苛立ちや不満も生まれつつある。

非識字社会日本

私は、1990年代初めから、日系ブラジル人の集住地区である愛知県豊田市保見団地をフィールドにして研究を行ってきているが、こ



放課後、日本語補習教室で学ぶ日系の子どもたち(愛知県豊田市)

ゴミ出しルール REGRAS DE COMO JOGAR O LIXO		
	収集日 DIA DE COLETA	出してよい時間 HORÁRIO QUE É PERMITIDO JOGAR O LIXO
燃やすゴミ LIXOS QUEIMÁVEIS	火曜、金曜日 TERÇA E SEXTA FEIRA	前日15時～当日8時30分迄 ÀS 15 HORAS DO DIA ANTERIOR - ATÉ ÀS 8:30 DO DIA DA COLETA
金属ゴミ LIXOS METÁLICOS	第1水曜日 1ª QUARTA-FEIRA	前日15時～当日8時30分迄 ÀS 15 HORAS DO DIA ANTERIOR - ATÉ ÀS 8:30 DO DIA DA COLETA
埋めるゴミ LIXOS PARA ENTERRAR	第3水曜日 3ª QUARTA-FEIRA	前日15時～当日8時30分迄 ÀS 15 HORAS DO DIA ANTERIOR - ATÉ ÀS 8:30 DO DIA DA COLETA
資源ゴミ LIXOS RECICLÁVEL	第1月曜日 1ª SEGUNDA-FEIRA	前日9時～10時30分迄 ÀS 9 HORAS DA MANHÃ DO DIA ANTERIOR - ATÉ ÀS 10:30 DO MESMO DIA.

団地内のバイリンガル表示（愛知県豊田市保見団地）



日本語を学ぶ失業した日系人労働者

ここで共生システムの崩壊とそこから生ずる問題の深刻さを目の当たりにしてきた。

共生のために地域でのコミュニケーション力をいかに確保するかという点について見ると、やや古いデータになるが、この団地で1999年から2002年の4年間実施した日系人の読み書き能力に関する調査から、その深刻さを見てとることができる。「駐車禁止」「危険」「あぶない」「止まれ」「禁煙」など、実際の地域生活で目にする日本語の表示を日系人が読めるかどうか、また意味がわかるかどうかを質問する調査を行い、480名から回答を得たが、その結果は、「あぶない」という表示を「まったく読めないし、意味もわからない」と答えた人が38.75%、「危険」については72.92%であった。工場労働者のうち、72.43%が「危険」を読めず意味もわからないと答えたのである。

これらのデータから見えてきたのは、日本語文字でのコミュニケーションがとれない地域社会になりつつあるという実態であった。かつて、1980年代なかば、アメリカにおいて、『非識字社会アメリカ“*Illiterate America*”』というセンセーショナルなタイトルの本が出版されたのを思い起こす。ジョナサン・コゾル (Jonathan Kozol) によるもので、当時のアメリカ国民の3分の1にあたる人々が、読み書きに何らかの困難を抱えていることを告発し、警告を与えるものであった。

今、日本社会は、まさにこうした深刻な事態に至りつつあると言える。にもかかわらず、外国人を対象とした日本語教室の拡充はほとんど進んでおらず、外国人集住地区でさえも、市町村主催による日本語教室一つ開講されていないところもある。外国人が日本で暮らし、働くために必要とする日本語力を習得するための学習機会をどう保障していくかがまさに問われている。

成人基礎教育としての日本語教育を

そうしたなか、日本語教育学会を中心に、日本語教育関係者が仮称「日本語教育振興法」制定に向けて、具体的に動き出したことは

注目に値する。すでに地域日本語教育実践にかかわるボランティアからは、法制定による日本語教育体制の確立を求める声が10年ほど前から出ていたことを考えるとやや遅れた感はあるが、今後、地域における日本語学習の機会拡大が急速に進むことが期待される。

とはいえ、そこに、教育学研究の視点から意見がないわけではない。一つは、日本語教育振興法の法的位置について、私は教育法として位置づけるべきだと考える。欧米の外国人住民に対する言語教育は、成人基礎教育として位置づけられ、成人教育機関においては、資格を有する有給の教員が、授業料を取ることなく教えている。日本においては、公民館など地域の社会教育機関で、公的に学習機会を保障することが求められるよう。

また、一定規模の日本語学習希望者と日本語教員資格を有する講師が一定時間数以上の授業時間を確保するプログラムを作成して、国や地方自治体に申請すれば、教室運営費が交付されるという「申請学級方式」にすべきであると考え。かつて、社会教育分野では、1953年に施行され1999年に廃止となった「青年学級振興法」という法律があったが、学習者である青年の自主性・主体性を重視したものであり、学習を強制するものではなかった。同化を強要するのではなく、学習の自由を確保するためにはこうした申請学級方式が望ましい。いずれにしても、仮称「日本語教育振興法」の制定が、外国人住民と日本人住民の地域における言語問題解決のきっかけになることを期待したい。

野元弘幸 (のもと・ひろゆき)

首都大学東京 都市教養学部 准教授、特定非営利活動法人保見ヶ丘ラテンアメリカセンター代表理事、1961年生まれ、49歳。

専門：多文化教育、社会教育・生涯学習

1992年から愛知県豊田市保見団地の日系人コミュニティに関わりながら研究を行うと同時に、外国人の生活支援、まちづくりを目指すNPO法人の代表として地域で実践を行う。ブラジルの教育学者パウロ・フレイレの理論を応用した課題提起型日本語教育を提案。関連論文「フレイレ教育学の視点」（青木直子ほか『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社、2007年）

学習者の目

このコラムでは、
学習者の視点での話題を
お届けします

View from the Other Side

23年生きて経験したこと学習したこと

ガンボルド・ソロンゴ (モンゴル)



——高校留学で来日したとのことですが、モンゴルでは日本語の勉強をしましたか。

モンゴルでは日本語学習ゼロでした。高校留学の話があり、いとこの朝青龍の助けを得て2004年3月に来日、4月に高知県の明德義塾高校に入学しました。高校生になってはじめて日本語の勉強をしました。



——今、大学4年生ですね。

はい。卒論の準備をしています。卒論のタイトルは「被援助国に於ける開発援助のオーナーシップ」です。被援助国はモンゴルのことです。日本からの援助のことについて研究中です。だいたい出来上がっていますが、ゼミの先生に見せるのはこれからです。

——卒業後は？

日本で働きたいと思っています。その先の将来は国連で働くのが夢です。

——モンゴルでもご活躍だったとのことですが。

モンゴルでは学校に行きながら教育テレビの司会をしていました。12歳でオーディションを受けて17歳まで続けました。子供番組でモンゴル国民テレビの全国放送でした。この番組の特徴は出演者の子供が自分たちでアイデアを出して、協力して番組を作ることでした。このときにチームワークの大切さを学んだような気がします。一人ではどうしようもなく、また締め切りの時間が迫っているときに力を合わせて協力して作品を作っていくというようなことです。ルールの認識や意見が違う他人同士がどのようにまとまるか、どのように認め合うか、互いを理解し合い、思いやるということがどのようなことかなど、なかなか経験できないことだったかもしれません。

——高校の3年間はいかがでしたか。

大学に入るための3年間でした。入試の準備が大変でした。推薦枠をいただきましたが、日本人と同じ条件で受験しなければなりません。試験科目は小論文、面接でした。進路指導、受験準備は先生方にとってもお世話になりました。

——小論文ですか。

小論文はモンゴルと日本の外交関係について書きました。当時、小泉首相がモンゴルに来て、その後首相が安倍首相に変わりモンゴ

ルと日本の関係がどうなるのかと置いていたころでした。入試は2006年11月12日でした。よく覚えています。高知からは一人で夜行バスに乗って東京に向かう予定でしたが、バスに乗れず、パニック状態になりました。知り合いの日本人に助けられ翌日新幹線で東京の試験会場に行きました。会場に到着してほっとしました。この時点ですでに大学生になれると確信しました。

小論文の出題はその場で出されますが、書き上げることができました。面接試験は順調だったと思います。

——小論文の試験の準備はどのようなことをしましたか。

大変でした。高校では『みんなの日本語初級』で日本語の勉強をしました。初級が終わる頃『完全マスター日本語能力試験漢字2級レベル』『同1級レベル』で漢字を自習しました。自分で勉強しないといけないと思いました。漢字のひとつひとつをノートに写していきましました。はじめのうちは1ページ全部にひとつの漢字をいっぱい書いていました。1行目に訓読み、2行目に音読み、3行目にはその漢字を使った言葉を、モンゴル語で意味を考えながら書きました。続けていくうちに書きなれてきて、たくさん書かなくても頭に入ってくるようになりました。小論文の対策としてもうひとつ、高校2年生になってからはじめたことがあります。高知新聞の朝刊を毎日、隅から隅まで読みました。日本について、社会についてなど知識を得るにはこれ以上のことはできませんでした。

——大学生生活はどうですか。

充実しています。講義の内容にもとても満足しています。大学3年生になりゼミに入りました。もと国連で働いていた先生のゼミです。大学1年生のときにゼミの内容説明を聞き、この人のゼミしかない、このゼミに入ることを目標にしていました。学生の中ではいちばん厳しいとうわさされるゼミでした。

将来は国連で働きたいと思っていますが、私が日本でこのような大きな夢を見られるのは朝青龍のおかげです。朝青龍の助けがあり留学できました。またテレビ局での経験を日本で生かしました。違う意見の人たちが同じ舞台にたち、作品を作っていくことは大変なことかもしれませんが、意見がちがうときにこそ調和していくことがとても大切だと思います。国と国の関係もそうだと思います。

ガンボルド・ソロンゴ

モンゴル、ウランバートル生まれ。趣味は語学、水泳、映画観賞。将来の夢は国連職員になって世界中の人々の役に立つこと。これからもさらなる国際人を目指して世界各地を訪問し、いろんな経験を積みたいと語る23歳。

あちこち 日本語

ご紹介 国内編



神奈川県
相模原市

外国につながる子どもの
可能性を広げる支援 CEMLA

神奈川県立相模原青陵高等学校講師
日本語教育コーディネーター 西山日佐子

「CEMLAは僕のような若者に、勉強し知識を増やす機会を提供してくれる場所です。既習の内容を確認し新しいことを学ばせてくれます。」この一文は母国ペルーで中学を卒業し、来日した男子生徒が書いたものです。母国で高校・大学を卒業しロボットを造りたいと願っていた彼は、保護者の都合により来日しました。しかしながらペルーの中学卒業時期が日本の高校受験と合わないため、在籍する学校・クラスメイトもなまま高校浪人のような形で1年間CEMLAに通い学ぶ事になりました。

日本全国での高等学校への進学率が97%を超えている現在（文部科学省「学校基本調査」）、外国につながる子どもたちの高校進学率は、地域により差がありますが50%前後と推計されています（宮崎「定住外国人の子どもの教育等に関する政策懇談会」文科省HP）。また上記の彼のように在籍する学校がなく、統計に入っていないケースを含めると更に低い進学率になると考えられます。このことは外国につながる子どもが近い将来就業を考えると、高校以上の学校に進学し卒業していないために専門的な知識や高度な技術を必要とする職種を選べないなどといった、職業選択の制限につながる可能性があります。

CEMLA (Center for multicultural learning & activities) は神奈川県立新磯高校（現県立相模原青陵高校：片 英治校長）が主体となり提案され、神奈川県教育委員

会のE-提案に認定され始めました。CEMLAの活動は東京都町田市や神奈川県相模原市において外国につながる子どもたちに関する調査を行い、その結果、必要と確認された「教育相談」「情報提供」「学習支援」を3つの柱とし、活動しています。

「教育相談」は相模原青陵高校の教員が中心となって通訳を介して行っています。来室者は中学生、中学をすでに卒業した人、高校生、高校を中退した人とその家族、学校の先生、支援者といったように様々です。現職の高校教員が「教育相談」と同時に「情報提供」を行うことで、年齢、来日時期、来日目的などが異なる一人ひとりの子どもたちの要望に見合った、今まさしく必要とされている進学・受験制度、学習場所や学習方法などについて伝えることが可能となっています。また「教育相談」で今後の学習の方向性を決めることができた子どもから希望があれば、CEMLAにおいて「学習支援」を受けることができます。「学習支援」には地域の大学、ボランティア団体といった機関がかかわり、社会人、高校生、大学生がボランティアとして活躍しています。ボランティアの方々には、子ども自身が自分たちのペースで学習を進めるための伴走者的な役割を担っていただくために1対1の活動を基本としご活躍いただいています。更には子どもたちと伴走者のスムーズな学習走行を調整するナビゲーターとして高校教員、日本語学習コーディネーターがそれぞれ専門的な見地から補助する態勢をとっています。

CEMLAでは子どもたちが学習を始めるにあたり、英語・数学・日本語の理解度のチェックを行います。その後、子どもたちそれぞれが必要とする教材などが入ったファイルを用意します。このファイルを基にボ



ランティアの方によって教科学習では定期テスト対策、入試対策としては日本語での面接練習などが行われます。さらに「会話は問題ないんだけど、教科学習がわからない…」と言った子どもたちの声に対して、教科理解を視野に入れた日本語の基礎的な構文理解と表現の学習、順序だった文字・語彙の学習を行うよう進めています。学習当初のチェックにより子どもの理解や既習内容を把握することで表面化した未習部分が学習できるように、一人ひとり学習内容を変えて進めていきます。この細やかな対応により外国につながる子どもたち一人ひとりが持っている資質を高め知識を増やすことになると考えています。今後も継続的な取り組みを進め、一人でも多くの子どもの可能性を広げる支援を続けていきたいと考えています。

◎ CEMLA (Center for multicultural learning & activities)

- 小田急相模大野駅相模女子大学構内
- スクール（学習支援教室）：
毎週土曜 10時30分～12時
- ルーム（教育相談・情報提供）：
毎週土曜 13時～15時（要予約）

CEMLAへの問い合わせや今後の予定等については以下のHPをご参照ください。

<http://www.sagamiharaseiryo-h.pen-kanagawa.ed.jp/>



あちこち 日本語

ご紹介 海外編



ドイツ連邦共和国
ハレ〔ザール〕市

発信、協働、ネットワーキングに
基づいた日本語教育を目指して

マルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学日本学科
専任講師 三輪 聖



日本学科新渡戸稲造研究所開所式には神余在独日本国大使にもご臨席いただいた

ドイツのハレという町について

旧東ドイツのハレ・アン・デア・ザール、通称ハレは、ドイツのザクセン＝アンハルト州南部のザール川沿いに位置する都市で、岩塩の採掘地として有名です。また、ハレは作曲家ゲオルク・フリードリッヒ・ヘンデルの出生地でもあり、市庁舎があるマルクト広場の中心には、ヘンデルの像が建っています。

ハレ大学の歴史 —新渡戸稲造とハレ大学

マルティン・ルター・ハレ・ヴィッテンベルク大学（以下、ハレ大学）は、ドイツ語圏で古い歴史を持つ大学のひとつです。1817年に設立され、ヴィッテンベルクで教鞭をとっていたマルティン・ルターに因んで名付けられました。日本学科は1992年に誕生しましたが、ハレ大学は明治期から日本と密接な関係にありました。例えば、旧五千円札の肖像で有名な新渡戸稲造は、1887年からドイツの様々な大学で農学を学び、1890年にはハレ大学で博士号を取得しています。その新渡戸稲造の名前は、ハレ大学日本学科の研究所の名前にもなっています。

学生ニーズと日本語教育

ハレ大学で日本学を勉強している学生は、総じて150人ほどいます。日本学を専攻している学生は日本語の授業が必須科目になるのですが、日本語の学習者数は年々増加し

ており、日本への関心、なかでも日本のアニメ、マンガ、ゲームなどといったポップカルチャーへの関心が高く、それが日本語の学習動機へと繋がっているケースが増えているように見受けられます。日本学を専攻している学生は、基本的に2年（4学期）の日本語コースを履修することになっ

ています。1年半（3学期）かけて初級を終え、最後の半年（1学期）で中級前期のレベルにまで達するよう目標が設定されています。そして、専門領域は主に歴史学、政治学、科学史、社会学に重点が置かれ、明確な目標を持つことばを学ぶことが促されています。

新たな試み—eラーニング、日本語集中コース

本学では、上記のような必須の授業のほかに、様々な日本語の授業が提供されています。その中で短期間で集中的に日本語を勉強したい学生を対象に集中コースが開設されており、このコースに参加し、編入試験に合格した学生は、通常の半分のスピードで日本語コースの全課程を修了することができます。筆者はこのコースの授業を担当しているのですが、学生が持つ無限の可能性にいつも驚かされます。

さらに、学生数が急激に増加していくなか、学生の学習をサポートすべくeラーニングを導入しました。2008年にILIAS (MoodleやDokeosなど同様のオープンソースのeラーニングシステム) を利用したeラーニングのプロジェクトがスタートし、日本学科で独自のサーバーを持ち、管理できるように約1年ほどかけて環境を整備し、目下コンテンツの充実化に取り組んでいます。現在、日本語講師と学生助手との協働によって、初級レベルの文法項目はカバー



日本学科のクラス風景。中央が筆者

するだけの問題のデータベースが整うまでになりました。昨年、語学センターと連携して学生主体の「ハレでの日本語 (Japanisch in Halle!)」と名付けた映像教材作成プロジェクトを立ち上げました。「ハレの町で日本語を使用するとしたら、どのような文脈が考えられるか」というコンセプトのもとに、シナリオやスクリプトの作成から撮影、編集作業までを学生が自ら手がけ、出来上がった作品をILIASで公開するという活動を行いました。eラーニングで利用しているILIASをプレゼンテーションの場として活用するとともに、将来的にはこれらの作品をILIASの教材としても活用する予定です。

現在、このILIASを利用した学習プログラムは主にハレ大学の日本語コースで使われていますが、目下ドイツ国内およびフランスなど他国をも含んだ欧州における他大学との連携の計画も進んでいます。このような連携体制を築くために、2008年から定期的に年に一度ハレ大学でワークショップを開催し、様々な教育機関におけるeラーニングの試みの紹介および情報・意見交換を行っています。今後も、国内のみならず国境を越えたネットワーキングを充実させ、ヨーロッパにおける日本語教育の発展に少しでも貢献できればと願っています。

(2010年9月現在)

教材 紹介

『新完全マスター漢字 日本語能力試験 N1』、『同 N2』
『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』
『ニュースの日本語 聴解 50』
『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』

『新完全マスター漢字 日本語能力試験 N1』、『新完全マスター漢字 日本語能力試験 N2』

日本語教師 石井怜子

本書は『完全マスター漢字日本語能力試験 2級レベル』『同1級レベル』の改訂版です。

機械的な書き取りや読み仮名を書く練習ではなく「考えて漢字を使う練習」、ひたすら読み方を覚え込むのではなく「言葉の意味を理解して語として学ぶ学習」を目指すこと、日本語学習者が身につけるべき知識をできる限り厳選して、系統的に学習項目を配置し、効率的な学習に配慮することは、本書においても踏襲しています。その上で、次のような改善を加えました。

●改訂のポイント

- ① 学習対象漢字の見直し
- ② 「漢字」と「漢字」の言葉の運用力を伸ばすための知識と学習の充実

①については、『新完全マスター漢字N2』では、従来の1級漢字の一部を加えて、1,046字を学習漢字とすると同時に、使用頻度が低

い読み方を減らしました。全体の数としては改訂前より増えていますが、どれも造語力があり使用頻度も高い漢字です。また、『同N1』でも使用頻度が改訂前より高くなっている語を中心にいくつかの漢字と読み方を加え、新しい話題にも対応ができるようにしました。

②については、未知の漢字の言葉に出合ったときに、持てる漢字の知識を駆使して読んだり意味を理解したりできる力、既知の言葉に接辞的に働く漢字を加えたりできる力を養うための知識と練習を、「広がる広げる漢字の知識」として『同N2』から系統的に導入しました。これらは、現実の言語活動を支えるのに必要な能力だと考えたからです。さらに、読む活動において漢字がどう利用できるのかを経験するための練習も加えました。

日本語の力を高めるためには、言語的な視覚情報を素早く処理する漢字力が不可欠です。本書を通じて、ぜひ実践的な漢字力を身につけていただけたらと願っております。

新完全マスター漢字 日本語能力試験 N1

B5判 197頁+解答22頁、1,260円

石井怜子・青柳方子・大野純子・木村典子・斎藤明子・塩田安佐・鈴木英子・松田直子・岑村康代・村上まさみ・守屋和美・山崎洋子 著



新完全マスター漢字 日本語能力試験 N2

B5判 121頁+解答79+44頁、CD 1枚付、1,470円

石井怜子・鈴木英子・青柳方子・大野純子・木村典子・斎藤明子・塩田安佐・杉山ますよ・松田直子・岑村康代・村上まさみ・守屋和美・山崎洋子 著



『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』

静岡大学国際交流センター教授 原沢伊都夫

本書は、これから日本語教育を目指す方や日本語教育初心者の方、日本語文法をもう一度復習したい方などを対象に、日本語教育に必要な文法知識を身につけることを目的に作られています。教室でテキストとして使用する場合と個人で勉強する場合の2通りの使い方が想定されます。

内容はこれまでの文法書とは様々な点で異なります。一番大きな違いは、読者の視点で書かれている点です。難しい文法用語はできるだけ避け、これまで日本語教育とはまったく無関係であった人でも理解できるように、イラストと図表を多用し、わかりやすい

説明を心がけています。別冊の「解答と解説」では、テキストのすべての問題について詳細な解説を掲載し、初心者でも納得して学習が進められるように配慮してあります。

その他の特徴として、プロセス重視の学習書であるという点が挙げられま

す。一通り文法理論を理解したら、多くの問題を解きながら実践的に身につけていきます。この作業では、文法の暗記ではない、自分自身の言語活動を振り返りながら答えを見つけていくプロセスを学びます。

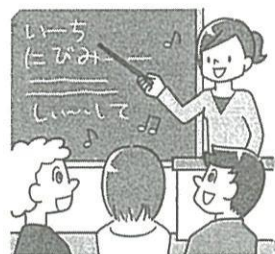
さらに、日本語教育に従事する者にとっての基本的な文法事項をすべて網羅しています。第1章から第8章までで日本語教育に必要な文法理論を学べ、「特別編」では、学校文法についての基礎知識を勉強したり、チェックしたりできるようになっています。

日本語教育の現場において、初心者、経験者を問わず、多くの方が本書を活用することを期待しています。

考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法

B5判 180頁+別冊64頁 1,680円

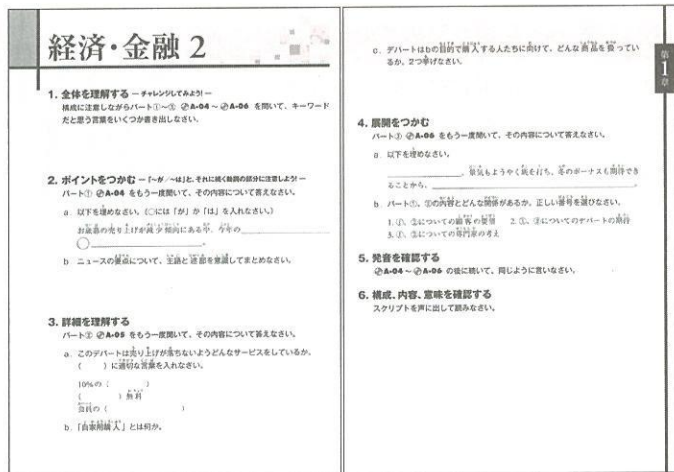
原沢伊都夫 著



『ニュースの日本語 聴解50』

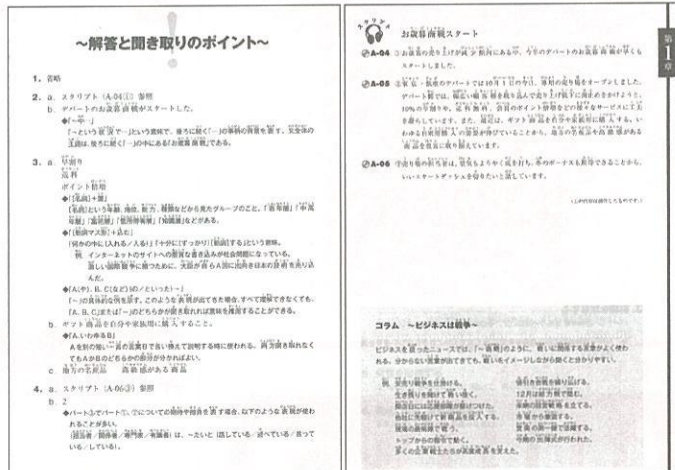
(財)国際教育振興会日米会話学院日本語研修所 瀬川由美

本書は中級後半以上の学習者を対象に、ニュースの構成と特徴的なニュース表現を学び、ポイントをつかむ力を養成することによって、生のニュースが聞き取れるようになることを目指したものです。実際に放送されているニュースと同じ形式の50のニュースを経済・金融20、政治・行政10、社会・生活20の3つの章に分けて載せてあります。各ニュースには1～6のタスクがあり、1時間で学習できるように作成しました。



【経済・金融2】6～7頁

タスクの解答には、聞き取りのポイントとなる解説を、また、スクリプトの後には、背景知識として必要な専門用語を簡単に紹介したコラムを付けました。



【経済・金融2】8～9頁

2枚のCDには、各ニュースのスクリプトと約500の重要語彙が収録されています。この重要語彙は、英語・中国語・韓国語の訳と例文を付けて別冊にまとめてあり、独習用としてもお使いいただけます。本書を通じて、ニュースのおもしろさを知ると同時に、日本の社会で日々起きている出来事について理解を深める助けとなれば幸いです。

ニュースの日本語 聴解50

B5判 205頁+別冊41頁、CD 2 枚付 2,520円
瀬川由美・紙谷幸子・北村貞幸 著



『毎日練習！ リズムで身につく日本語の発音』

専修大学国際交流センター日本語コーディネーター 赤木浩文

本書は、日本語で基本的なやりとりができる日本語学習者（初中級）を対象にした発音教材です。音声によるコミュニケーションで誤解を招かない、わかりやすい発音の習得を目標としています。

このテキストではコミュニケーション上で重要な発音に注目し、その部分に焦点を当てて練習します。学習項目は、単音・リズム・アクセント・イントネーションですが、日本語らしさに関わる「リズム」を意識して練習することがポイントです。付属の音声CDは、リズムの感覚を養うためにビート音を用いています。

また、クラス活動として行いやすいように、リピート、オーバーラッピング、シャドウイングなどによる発音練習を、ペア練習・グループ練習・タスクなどで行うようにデザインされています。題材は実際のコミュニケーションで考えられるやりとりを中心に、漫画、映画、俳句や川柳なども取り入れています。

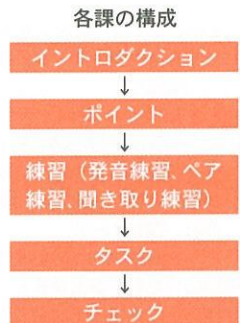
各課の構成は次のようになっています。

- ・イントロダクション：学習者が間違いやすい日本語の発音に注意を向けます。
- ・ポイント：発音の規則や練習のポイントを学びます。
- ・練習・タスク：ミニマルペアなどを用いて焦点化した発音練習を行います。

・チェック：練習の成果を振り返ります。

学習者のモチベーションに重点をおき、何のために練習するのか、どこに問題があり、どの程度上達したのかなど、学習における気づきを促し、振り返りを行う構成になっています。学習者は音の規則を学び、コミュニケーションのポイントとなる音声の練習ができます。

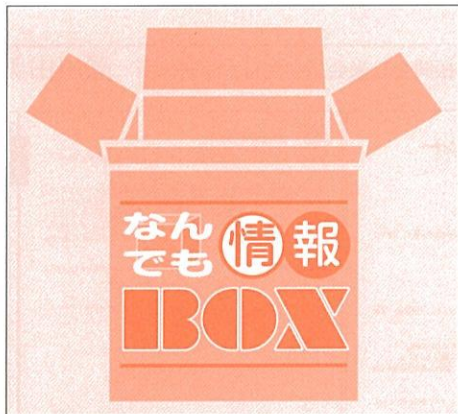
また、それぞれの課は独立しているもので、学習者が苦手な部分だけを選んで指導することもできますし、教師がいなくても、一人で学習することもできます。この教材で、学習者が楽しく効果的に日本語の発音を学ぶことができればと思います。



毎日練習！ リズムで身につく日本語の発音

B5判 80頁+別冊13頁、CD 1 枚付 1,680円
赤木浩文・古市由美子・内田紀子 著





SEMINARS

セミナー



アルク、スリーエーネットワーク、凡人社主催、
(財) 福島県国際交流協会後援 ◆地域で活動する
日本語ボランティアのための研修会 in 福島

日時： 11月3日(水・祝) 13:00~16:30
会場： ビッグパレットふくしま中会議室A
(福島県郡山市南2-52 TEL: 024-947-8010)
<http://big-palette.jp/07access/index-g.html>
定員： 100名(先着順)
参加費： 無料
問合せ/申込み先： お名前、連絡先、ご所属を明記の
うえ、凡人社営業部にお申込みください。
TEL: 03-3263-3959、FAX: 03-3263-3116
e-mail: ksakai@bonjinsha.com

- 内容(予定)：
- ・研修会1「地域日本語教室のための支援者と学習者をつなぐために」
宿谷和子(にほんごの会 会員、杉並でくらす外国人のためのにほんご教室担当講師、『いっばにほんごさんば暮らしの日本語教室 初級1』著者)
 - ・研修会2「はじめよう! 楽しもう! 日本語ボランティアー目指せ、対話力アップ」
吉田聖子(あけぼの会日本語教室、『外国人と対話しよう! にほんごボランティア手帖』著者)
 - ・研修会3「授業を豊かにするために~楽しく効果的な授業の広げ方」
鈴木英子((財)宮城県国際交流協会日本語講師、『はじめての授業キット』著者)

北海道日本語教育ネットワーク主催、アルク、スリーエーネットワーク、凡人社主催 ◆地域で活動する日本語ボランティアのための研修会 in 札幌

日時： 11月13日(土) 13:00~16:30
会場： 国際ホール
(札幌市中央区北4条西4丁目1番札幌国際ビル)
参加費： 無料(事前申込み不要)
問合せ： 北海道日本語教育ネットワーク
e-mail: hokjnet@lapis.plala.or.jp
<http://www.l2.plala.or.jp/hokjnet/>

- 内容(予定)：
- ・研修会1「はじめよう! 楽しもう! 日本語ボランティアー目指せ、対話力アップ」
米勢治子(東海日本語ネットワーク、『外国人と対

BOOKS

ほん

ひとりのできる 初級日本語文法の復習 中国語版	発売中	1,260円
日本語初級1 大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」	11月発行	2,940円
初級日本語学習者のための待遇コミュニケーション教育		
ースピーチスタイルに関する「気づき」を中心にー	12月発行	3,150円
改訂版 読むトレーニング基礎編 日本留学試験対応	12月発行	1,260円
改訂版 読むトレーニング応用編 日本留学試験対応	12月発行	1,470円

すべて税込価格です

●新刊

サードカルチャーキッズ 多文化の間で生きる子どもたち

原著『Third Culture Kids, Growing Up Among Worlds』
デビッド・C. ポロック、ルース・ヴァン・リーケン ●著
嘉納もも、日部八重子 ●訳、四六判 340頁、1,680円(税込)

「サードカルチャーキッズ(TCK)」とは、両親の生まれた国の文化を第一文化、現在生活している国の文化を第二文化とし、この二つの文化の間で特定の文化に属することなく独自の生活文化を創造していく子どもたちのこと。実際の体験談を通して、「落ちつかない、根無し草のような生活感覚」を持つ彼らの抱える問題の一つひとつ詳しく分析し、社会学的、心理学的、教育的観点から解決方法を探り、新たな道筋をつけていきます。海外赴任経験のあるTCKの親御さん、帰国生を対象としている教育関係者、日本語教育関連機関関係者には必読の書です。

◆読者プレゼント◆

本書を抽選で5名様にプレゼントいたします。ご希望の方はお名前(ご所属)、ご住所、郵便番号、電話番号をご記入のうえ、「サードカルチャーキッズ希望」と明記してJa-Net 編集室宛にお葉書またはメールでご応募ください。締切は11月15日です(当選は商品の発送をもって代えさせていただきます)。

- 話しよう! にほんごボランティア手帖(著者)
- ・研修会2「わかる・覚える・使うー3ステップで教える初級日本語授業の作り方」
大森雅美(『はじめての授業キット』『ゴイタツ日本語教師をめざせ!』著者)
 - ・研修会3「日本語ボランティア教室で役に立つ文法とは?」
澤田幸子((財)海外技術者研修協会関西研修センター日本語講師、『はじめて日本語を教える人のためのなっとく知っとく初級文型50』著者)
- * ロビーにて、日本語ボランティアグループを紹介するコーナーがあります。

九州日本語教育連絡協議会主催、スリーエーネットワーク共催 ◆九州日本語教育連絡協議会 2010年度12月研修会 内容重視の日本語教育を考える

日時： 12月11日(土) 13:00~17:00
会場： 九州大学箱崎文系キャンパス・文系講義棟401号
参加費： 1,000円(当日納入、会員・学生割引はありません)
定員： 90名(事前申込み不要)
問合せ： 九州大学留学生センター 小山 悟
e-mail: koyama@isc.kyushu-u.ac.jp

- 内容(予定)：
- ・講演「年少者の日本語教育を例に」
齋藤ひろみ(東京学芸大学)
 - ・パネルセッション「内容重視のアプローチは成人学習者対象の日本語教育にどう応用できるか」
【進行】横溝紳一郎(佐賀大学)
【パネリスト】小山 悟(九州大学)、近藤有美(長崎外国語大学)、齋藤ひろみ(東京学芸大学)

スリーエーネットワーク主催 ◆『みんなの日本語初級II』研修会

日時： 2011年2月5日(土) 13:30~16:30
会場： 愛日会館
(大阪府大阪市中央区本町4-7-11)

講師： 澤田幸子
(『みんなの日本語初級』執筆協力者)

定員： 80名(先着順)
参加費： 無料
問合せ/申込み先： スリーエーネットワーク講座係
101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3
TEL: 03-3292-6193 FAX: 03-3292-6194
e-mail: kouza@3anet.co.jp

- 内容(予定)：
- ・『みんなの日本語初級』の使い方について、本書執筆協力者が、基本的な授業の進め方を中心に、練習の工夫、学習者が陥りやすい問題点など、具体的な事例を示しながら進めていきます。
 - ・当日会場に『みんなの日本語初級II 本冊』を必ずご持参ください。
 - ・今回の講座は、すでに『みんなの日本語初級』をお使いの方を対象とさせていただきます。
 - ・『みんなの日本語初級II』の中から、いくつか項目を取り上げる予定です。

●『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします(国内のみ)。『Ja-Net』第56号は2011年1月25日発行です。

2010年10月25日発行

●発行人 小林卓爾
●発行所 (株)スリーエーネットワーク
営業広報部 Ja-Net 編集室
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル
TEL: 03-3292-6193 FAX: 03-3292-6194
E-mail: ja-net@3anet.co.jp <http://www.3anet.co.jp/>
●印刷 日本印刷(株)

© 2010 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)